

障害福祉計画ニーズ調査の概要について

1 調査の目的

障害福祉計画の作成に当たり、障害者の生活実態や福祉サービスに対するニーズを把握し、障害のある人が生涯を通じて安心して生活が送れるようにするために、必要な支援策の検討に活用する。

2 調査対象者

平成31年4月1日現在の障害者手帳所持者（身体、療育、精神）10,643人の約9.4%に当たる1,000人を抽出

【抽出方法】

(1) 障害福祉サービス利用者

① 在宅利用者…540人(54.0%)

障害福祉サービス（通所型サービス）利用者に対して、サービス事業所を通じ調査を実施

② 障害児通所サービス（児童発達支援、児童・生徒）…260人(26.0%)

障害児通所サービス利用者（障害者手帳未所持者を含む）に対して、サービス事業所を通じて調査を実施

(2) 障害福祉サービス未利用者 …200人(20.0%)

サービスを利用していない人を抽出し、郵送により調査を実施

対象者：18歳以上～65歳未満の手帳所持者（身体1～3級、療育、精神1・2級）

3 調査方法

・ **調査期間** 令和2年4月1日～4月24日（調査基準日：令和2年4月1日）

・ **調査方法**

(1) 障害福祉サービス利用者

サービス事業所に聞き取り調査を依頼（障害児通所サービスは配布・回収を依頼）

(2) 障害福祉サービス未利用者

無作為により抽出し調査票を郵送、障害者本人または同居家族が回答

・ 記名の有無：無記名

4 調査内容

・ 調査票は、サービスの利用形態により、一部をその特性に応じた調査項目とした。

（次ページの調査項目一覧参照）

5 回答数及び回答率

全体…699人(69.9%)

(1) 障害福祉サービス利用者

① 在宅利用者…450人(83.3%)

② 障害児通所サービス（児童発達支援、児童・生徒）…130人(50.0%)

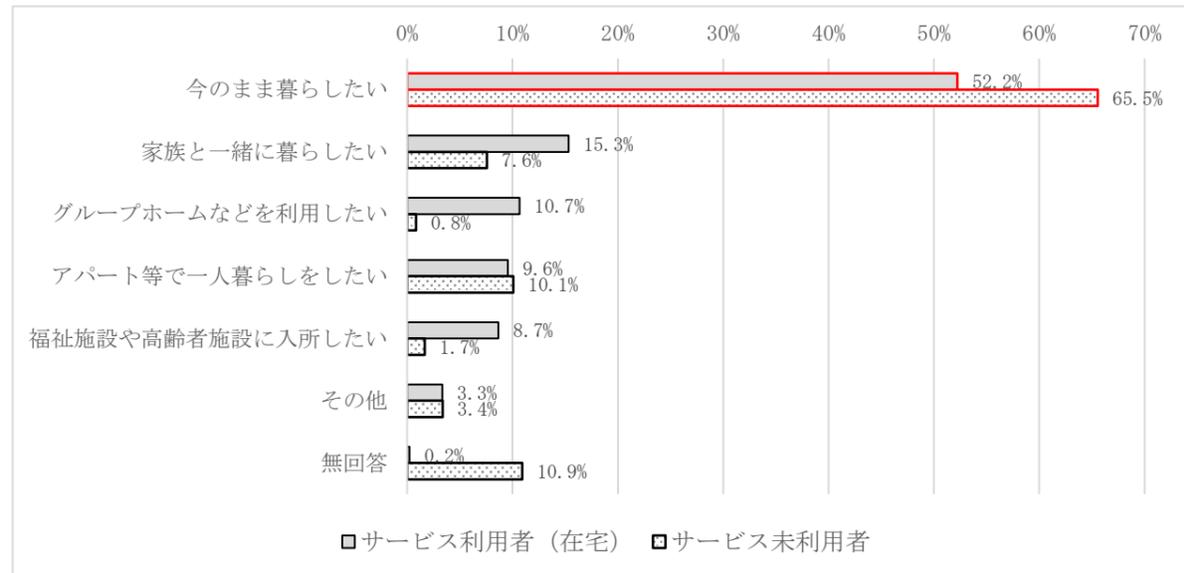
(2) 障害福祉サービス未利用者 …119人(59.5%)

調査項目一覧（順不同）

設問分類／区分	サービス利用者			サービス未利用者
	在宅	児童発達支援	児童・生徒	
回答者について	○	○	○	○
対象者について （性別、年齢、居住地域、手帳の種類・等級）	○	○	○	○
特に困ったり、不安に思っていること	○	○	○	○
福祉関連の情報の主な入手方法	○	○	○	○
相談相手	○	○	○	○
現在どのように生活しているか	○			○
今後どのように暮らしたいか	○			○
地域で生活するために必要な支援	○			○
外出時に支援が必要か	○			○
平日日中の居場所	○	○	○	○
日中どのように過ごしたいか	○			○
災害時に一人で避難できるか	○			○
災害時に困ること	○	○	○	○
差別の経験	○	○	○	○
虐待の経験	○		○	○
成年後見制度の認知度	○			○
障害児の支援（困っていること、重要と思うこと）		○	○	
児童発達支援事業について		○		
放課後等デイサービスについて			○	
短期入所の利用について	○			
就労について	○			○

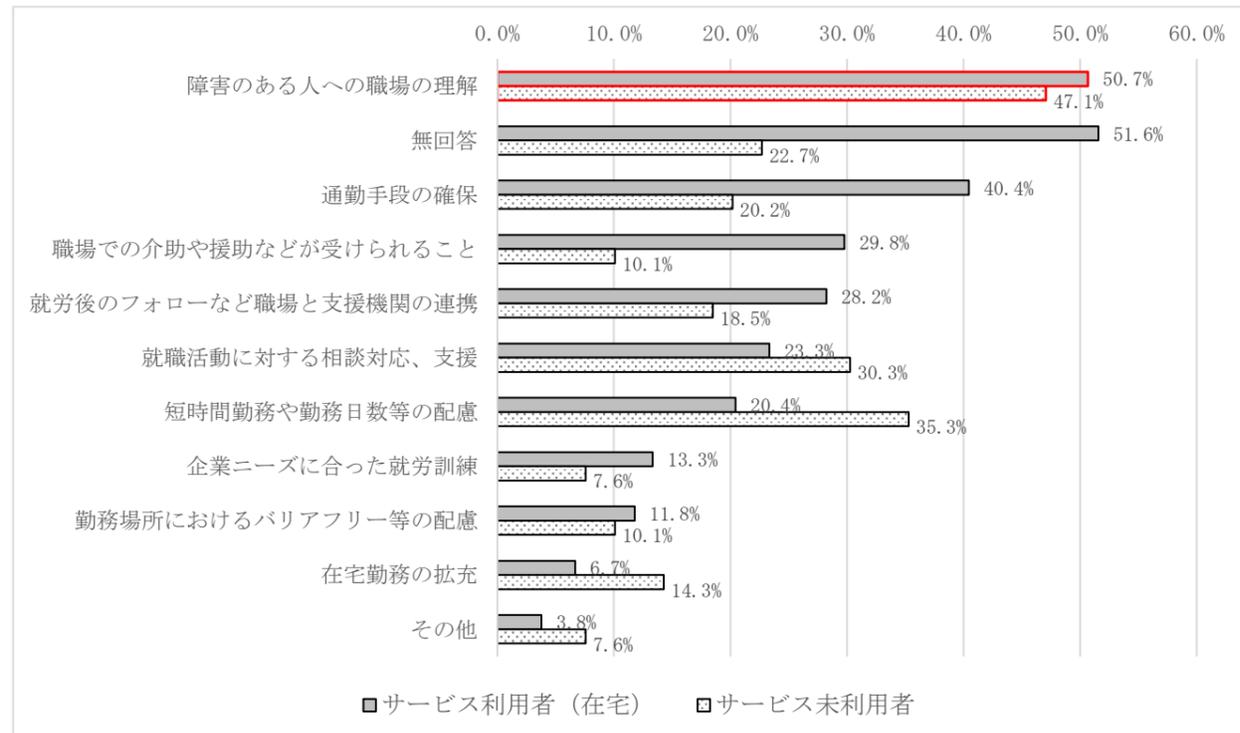
◆ニーズ調査の主な分析結果 ※割合（％）は小数点第1位で四捨五入しており合計が一致しない場合がある。

(1) 今後どのように暮らしたいか。〈サービス利用者（在宅）、サービス未利用者〉



・「今のまま暮らしたい人」の現在の住まいは、サービス利用者（在宅）では、「家族と生活している方」（71.5%）、「一人暮らしの方」（12.8%）、「施設で生活している方」（15.3%）など、サービス未利用者では、「家族と生活している方」（80.8%）、「一人暮らしの方」（17.9%）などとなっており、家族と生活している方がそのままの生活を希望している。

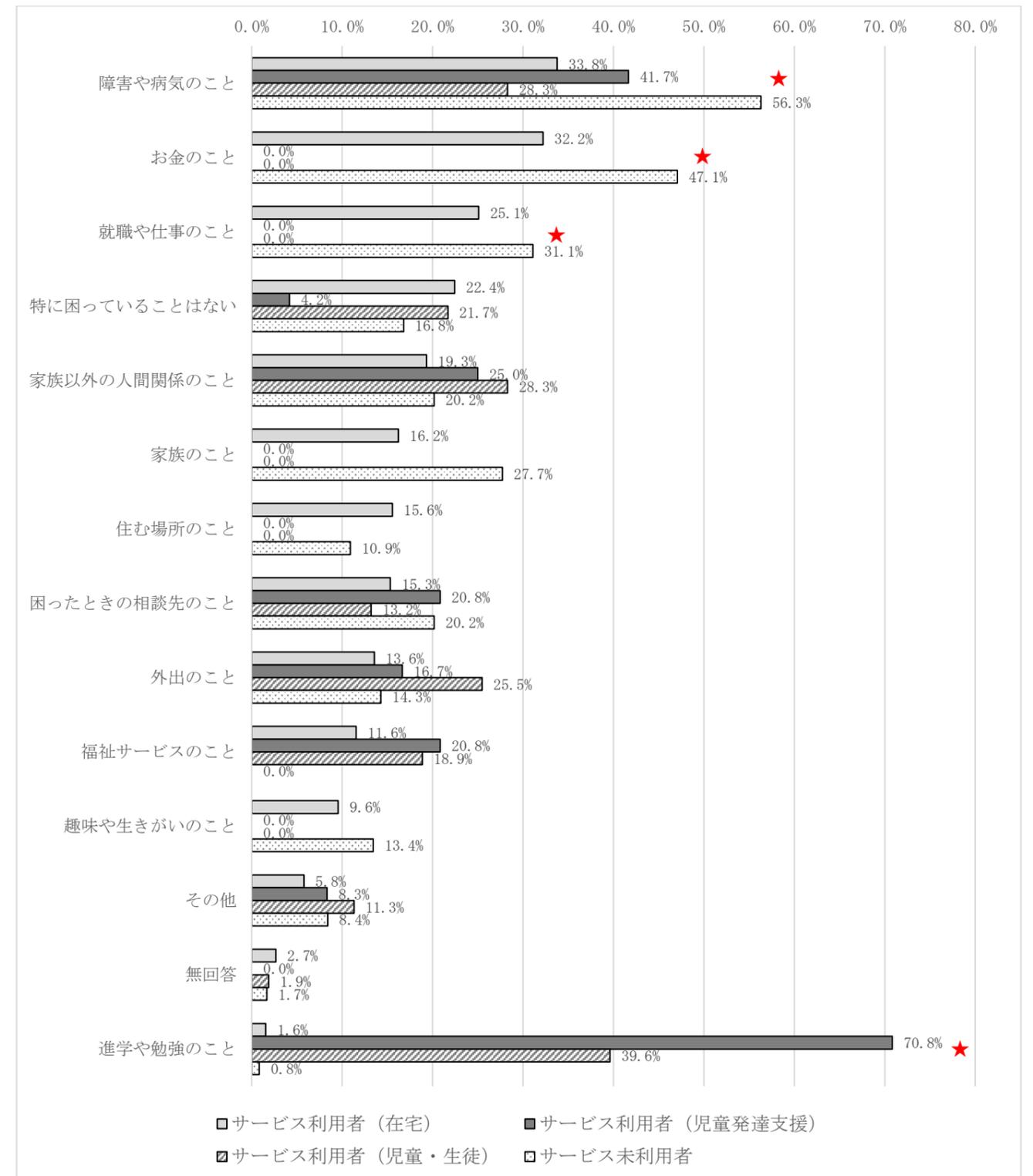
(2) 障害者の就労に必要な支援は。〈サービス利用者（在宅）、サービス未利用者〉 ※複数回答の設問



・「障害のある人への職場の理解」（50.7%、47.1%）が最も高い。これ以外に、サービス利用者（在宅）では、「通勤手段の確保」（40.4%）、「職場での介助や援助などが受けられること」（29.8%）、サービス未利用者では、「短時間勤務や勤務日数等への配慮」（35.3%）、「就職活動に対する相談対応、支援」（30.3%）の順に高い。
 ・サービス未利用者の半数（47.1%）を占める未就労者のうち、その半数（53.6%）が就労意欲を示している。

(3) 特に困ったり、不安に思っていること。〈サービス利用者（在宅）・（児童発達支援）・（児童・生徒）、サービス未利用者〉

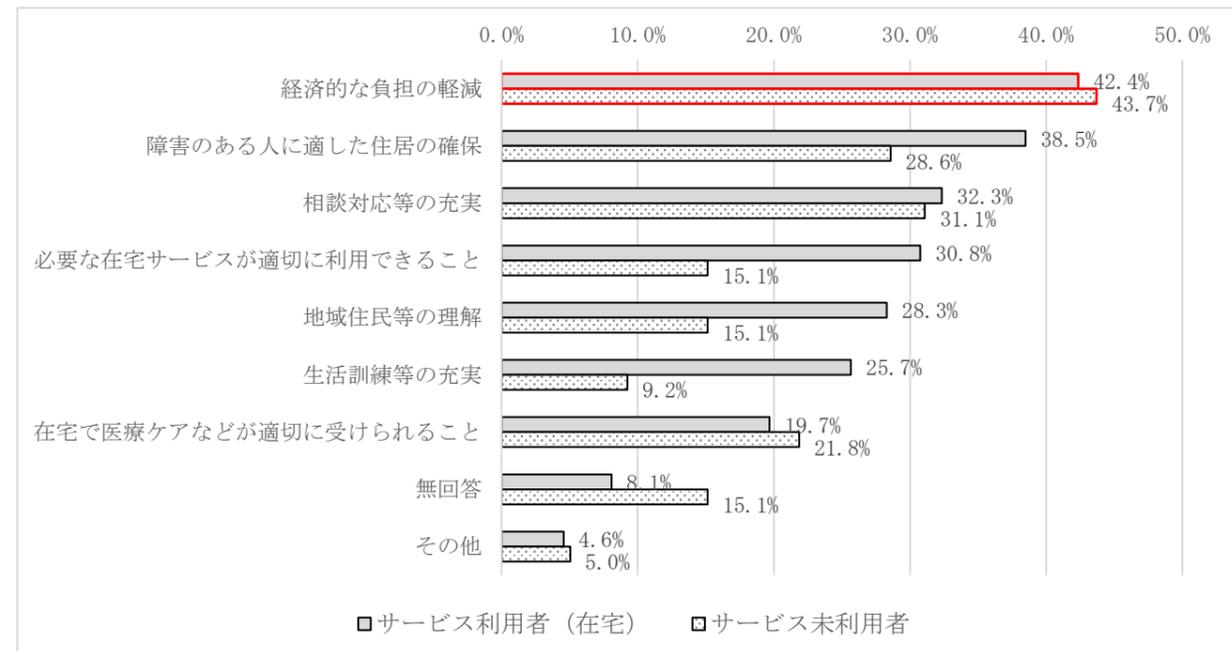
※複数回答の設問



・「障害や病気のこと」が共通して上位となっている。これ以外に、サービス利用者（在宅）及びサービス未利用者では「お金のこと」（32.2%、47.1%）や「就職や仕事のこと」（25.1%、31.1%）など経済的な不安が上位となっている。児童発達支援及び児童・生徒のサービス利用者では「進学や勉強のこと」（70.8%、39.6%）の割合が高い。

(4) 地域で生活するために必要な支援は。<サービス利用者（在宅）、サービス未利用者>

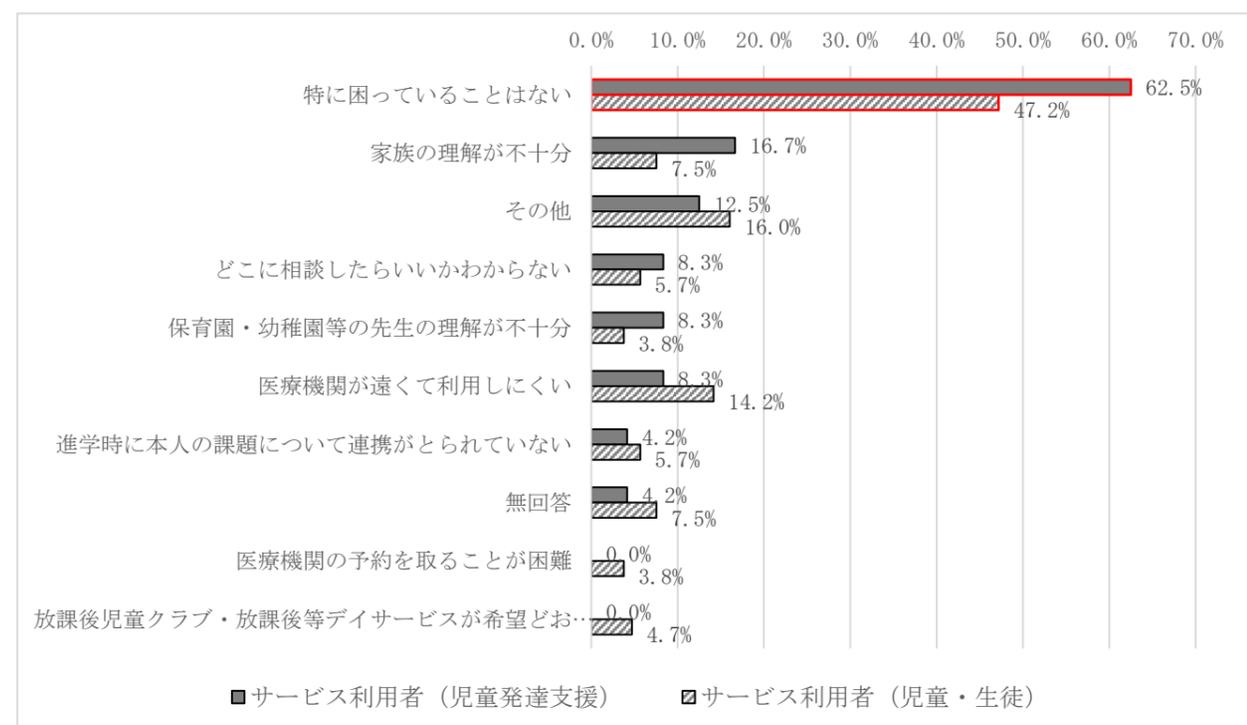
※複数回答の設問



- ・前段の「困っていること」を受けて、「経済的な負担の軽減」（42.4%、43.7%）が共通して最も高い。
- ・障害種別ごとの分析では、身体障害のある方及び知的障害のある方で特に重度の方は「障害のある人に適した住居の確保」、「必要な在宅サービスが適切に利用できること」の割合が高い。

(5) 発育・発達に関すること等で困っていることは。<サービス利用者・（児童発達支援）・（児童・生徒）>

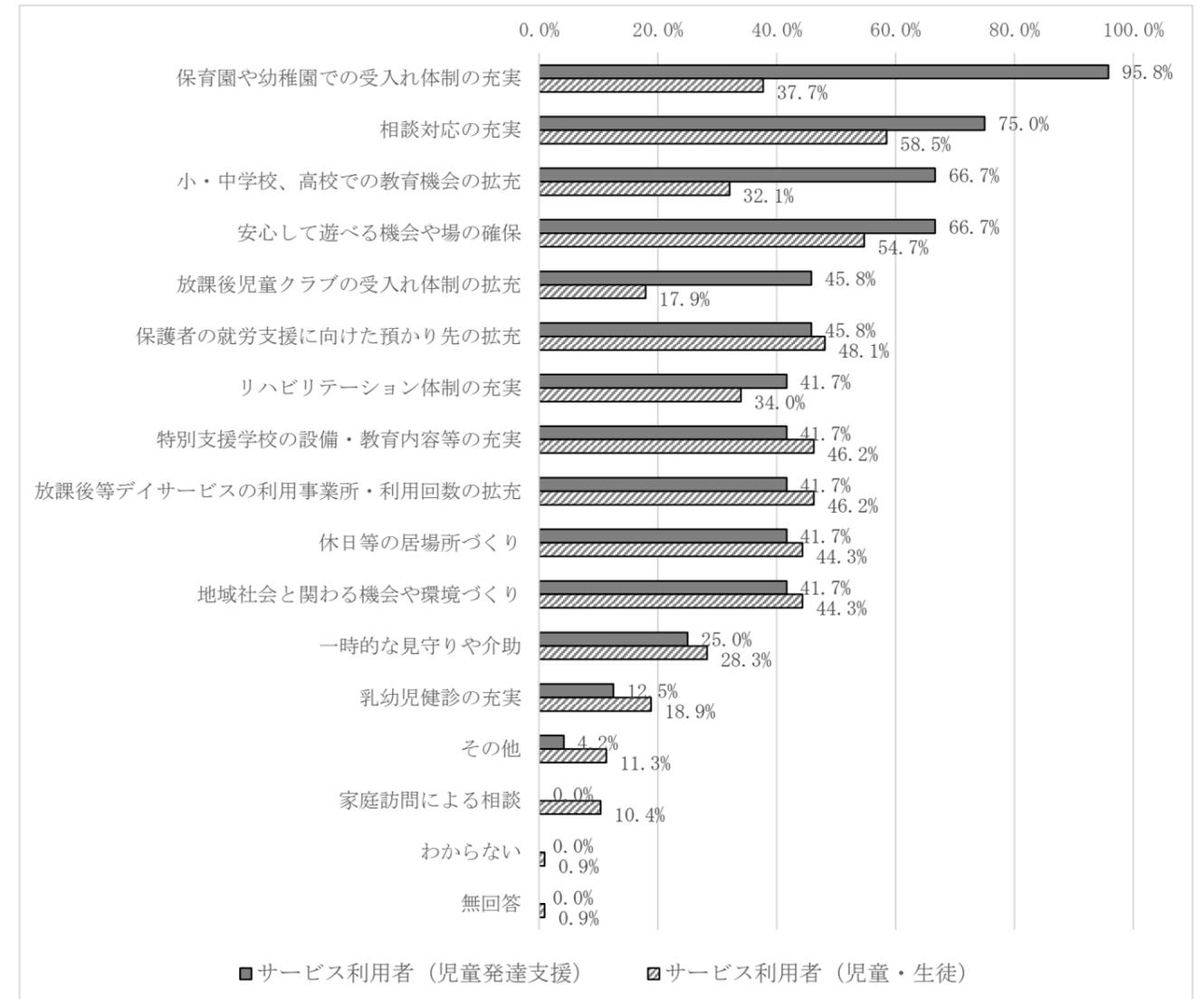
※複数回答の設問



- ・「特に困っていない」（62.5%、47.2%）が共通して最も高い。

(6) 障害児のために重要と思うもの。<サービス利用者・（児童発達支援）・（児童・生徒）>

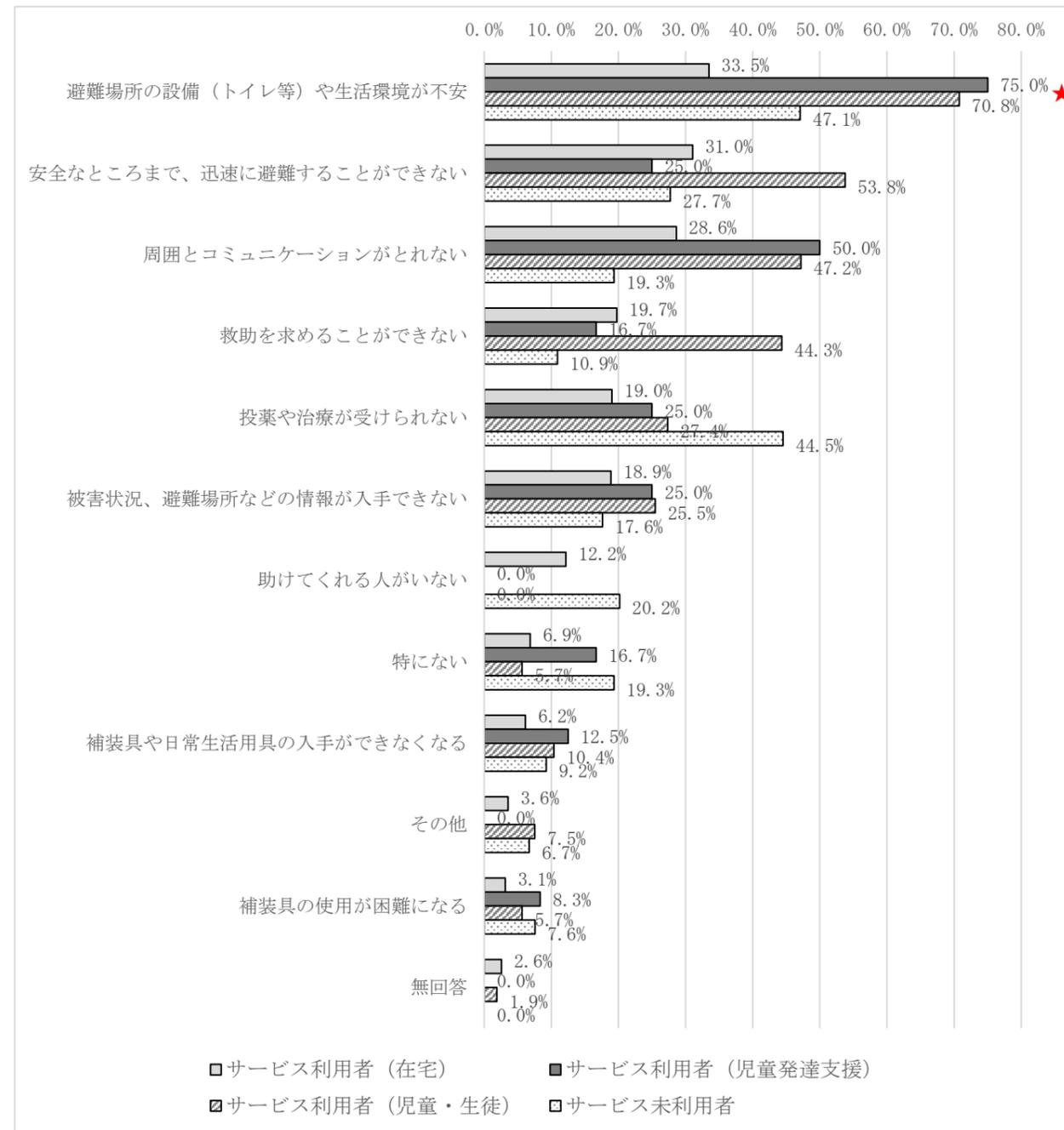
※複数回答の設問



- ・児童発達支援では、「保育園や幼稚園での受入れ体制の充実」（95.8%）、相談対応の充実（75.0%）、「小・中学校、高校での教育機会の拡充」（66.7%）、「安心して遊べる機会や場の確保」（66.7%）の順に高く、児童・生徒では、「相談対応の充実」（58.5%）、「安心して遊べる機会や場の確保」（54.7%）、「特別支援学校の設備・教育内容等の充実」（46.2%）、「放課後等デイサービスの利用事業所・回数の拡充」（46.2%）が高い。
- ・障害種別ごとの分析では、身体及び知的障害のある方で特に重度の方は「リハビリテーション体制の充実」の割合が高い。
- ・前段で「特に困っていない」が大半を占める一方で、受入れ体制や預かり先の充実・拡充、サービス等の利用環境の一層の充実を求めている。

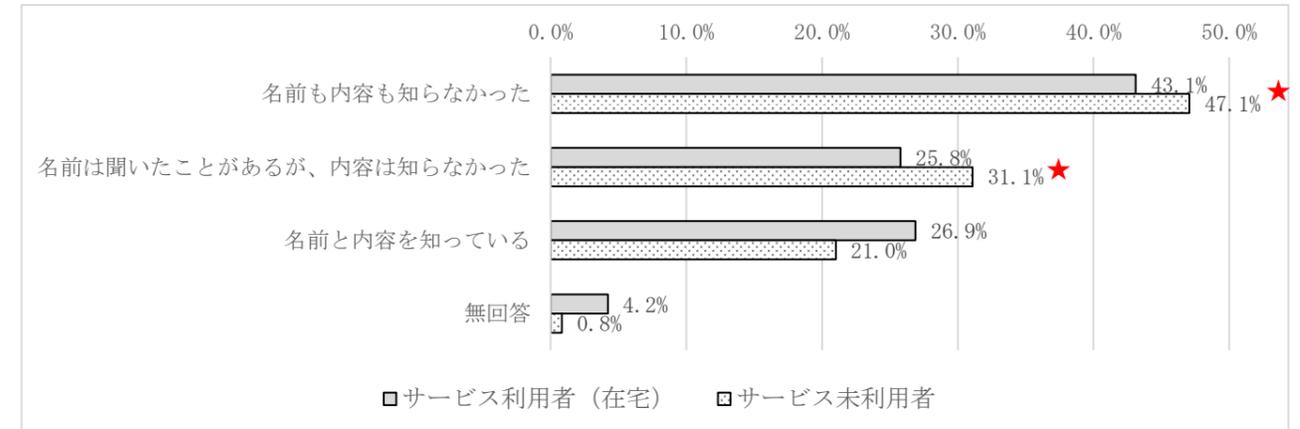
(7) 災害時に困ること。〈サービス利用者（在宅）・（児童発達支援）・（児童・生徒）、サービス未利用者〉

※複数回答の設問



・「避難場所の設備（トイレ等）や生活環境が不安」が共通して最も高い。
 ・児童発達支援及び児童・生徒では、「周囲とコミュニケーションがとれない」や「安全なところまで、迅速に避難することができない」、「救助を求めることができない」が多く、これらの項目は知的障害の方で割合が高い。
 ・「投薬や治療が受けられない」は、障害種別ごとに見ると精神障害や難病の方で割合が高い。

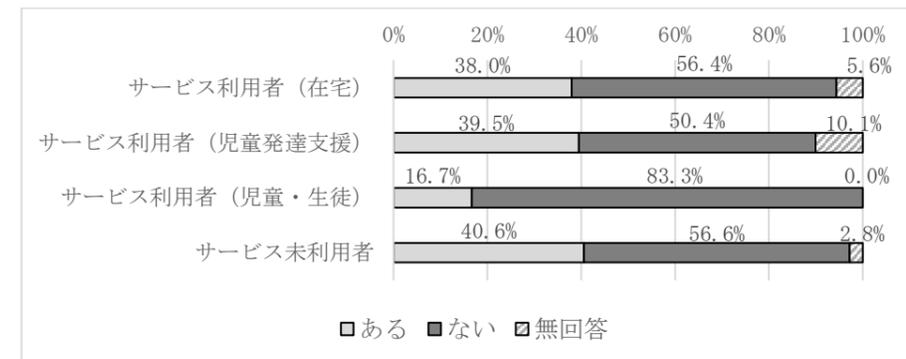
(8) 成年後見制度を知っているか。〈サービス利用者（在宅）、サービス未利用者〉



・「名前も内容も知らなかった」（43.1%、47.1%）が最も多く、内容を知らない人は7割を超え、認知度が低いと言える。

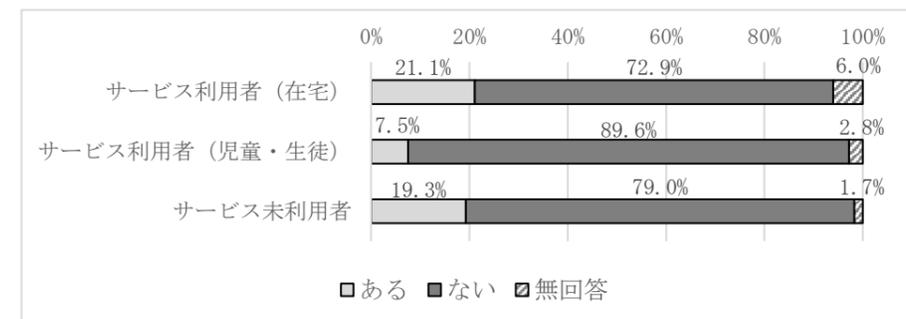
(9) 差別や虐待の経験について。

① 障害があることで差別や嫌な思いをしたこと〈サービス利用者（在宅）・（児童発達支援）・（児童・生徒）、サービス未利用者〉



・差別の内容としては、学校や職場での待遇が異なる、悪口・陰口など言葉によるもの、見る目が違う・笑われた・無視されたなど態度によるものなどが多い。

② 障害者への虐待を受けたり、見たり聞いたりしたこと〈サービス利用者（在宅）・（児童・生徒）、サービス未利用者〉



・虐待の内容としては、侮辱する言葉、怒鳴られた、暴力を振るわれた、の順に多い。
 ・どこで・誰からの問いには、自宅・障害者施設・職場のほかテレビやインターネットから受けたとする回答も多かった。